



適用害虫と使用方法

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	アセキノシル を含む農業の 総使用回数
かんきつ	ミカンハダニ チャノホコリダニ ミカンサビダニ	1000~1500倍	200~700ℓ/10a	収穫7日前まで	1回	散布	1回
りんご	ナミハダニ リンゴハダニ						
なし	ハダニ類 ニセナシサビダニ	1000倍		収穫前日まで			
もも	ハダニ類 モモサビダニ	1000~1500倍 1000倍		収穫7日前まで			
ネクタリン	ハダニ類 モモサビダニ	1000~1500倍 1000倍		収穫3日前まで			
うめ	ハダニ類	1000~1500倍		収穫7日前まで			
すもも				収穫3日前まで			
おうとう				収穫7日前まで			
ぶどう				収穫14日前まで			
あけび(果実)				収穫3日前まで			
さんしょう(果実)			収穫30日前まで				
パイナップル			収穫3日前まで				
マンゴー			収穫3日前まで				
ゴレンシ			収穫7日前まで				
きゅうり うり類(漬物用)			1000~1500倍	150~300ℓ/10a	収穫前日まで		
すいか	1000倍	1000~1500倍	収穫7日前まで				
メロン							
かぼちゃ	1000倍	1000~1500倍	収穫7日前まで				
なす	チャノホコリダニ	1000倍	1000~1500倍	収穫前日まで			
ピーマン	ハダニ類 チャノホコリダニ						
いちご	ハダニ類	1000~1500倍	150~300ℓ/10a	収穫前日まで			
はすいも(葉柄)		1500倍		収穫7日前まで			
さといも(葉柄)		1000~1500倍		収穫3日前まで			
やまのいも		1000~1500倍		収穫7日前まで			
あずき	カンザワハダニ	1500倍	1000~1500倍	収穫7日前まで			
しそ				収穫21日前まで			
きく(葉)	ハダニ類	1000~1500倍	200~400ℓ/10a	収穫7日前まで	2回 以内	2回 以内	
食用ぎく	ハダニ類	1000倍	150~300ℓ/10a	-	1回	1回	
食用パンジー		1000~1500倍					
食用カーネーション	カンザワハダニ	1000倍	200~400ℓ/10a	摘採7日前まで	1回	1回	
茶	ハダニ類	1000倍	150~300ℓ/10a	-	1回	1回	
花き類・観葉植物 (ばら、ぎく、カーネーション、デルフィニウムを除く)							
きく カーネーション							
デルフィニウム	シクラメンホコリダニ ハダニ類	1000倍					





⚠ 効果・薬害等の注意

- ボルドー液などのアルカリ性の強い薬剤との混用はさける。
- 本剤は植物体への浸透移行性がないので、葉の表裏にむらのないよう均一に散布する。
- ハダニ類は繁殖が速く、密度が高くなると防除が困難になるので、発生初期にむらのないようていねいに散布する。
- 本剤の連続散布はハダニ類の本剤に対する抵抗性を発達させるおそれがあるので、年1回の使用とし、他の殺ダニ剤との輪番で使用する。
- 本剤を施設栽培温州みかんに使用する場合、果実に薬害を発現させるおそれがあるので開花後の使用はさける。
- ぶどうに使用する場合、落花20日以降袋掛け前までの散布は果粉溶脱や汚れを生じることがあるので注意する。
- いちごに使用する場合、新葉の葉裏に褐変症状の薬害を生じることがあるが、その後の生育に影響は認められない。
- 周辺の作物、特にばらにかかると薬害を生じることがあるので十分注意して散布する。
- 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせ調節する。
- 散布器具、容器の洗浄水及び残りの薬液は河川等に流さず、容器は環境に影響を与えないよう適切に処理する。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意する。特に適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

⚠ 安全使用上の注意



- 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用する。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさける。
- 夏期高温時の使用をさける。

治療法…該当なし

魚毒性等…水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

保管…密栓し、直射日光を避け、食品と区別して保管する。40℃以上及び-5℃以下になる可能性のある場所には保管しない。

PRTR法 該当なし

欄外

- アリエッティ水和剤及びアリエッティ混合剤と混用する場合、必ずカネマイトフロアブルを最初に所定の濃度に希釈してからそれぞれの剤を最後に加える。
- ボルドー液、石灰硫黄合剤との混用は効果が劣る場合があるのでさける。またボルドー液との近接散布は14日以上間隔をあける。
- 高温になりやすい場所（車内、コンクリートの上など）に放置しない。

